

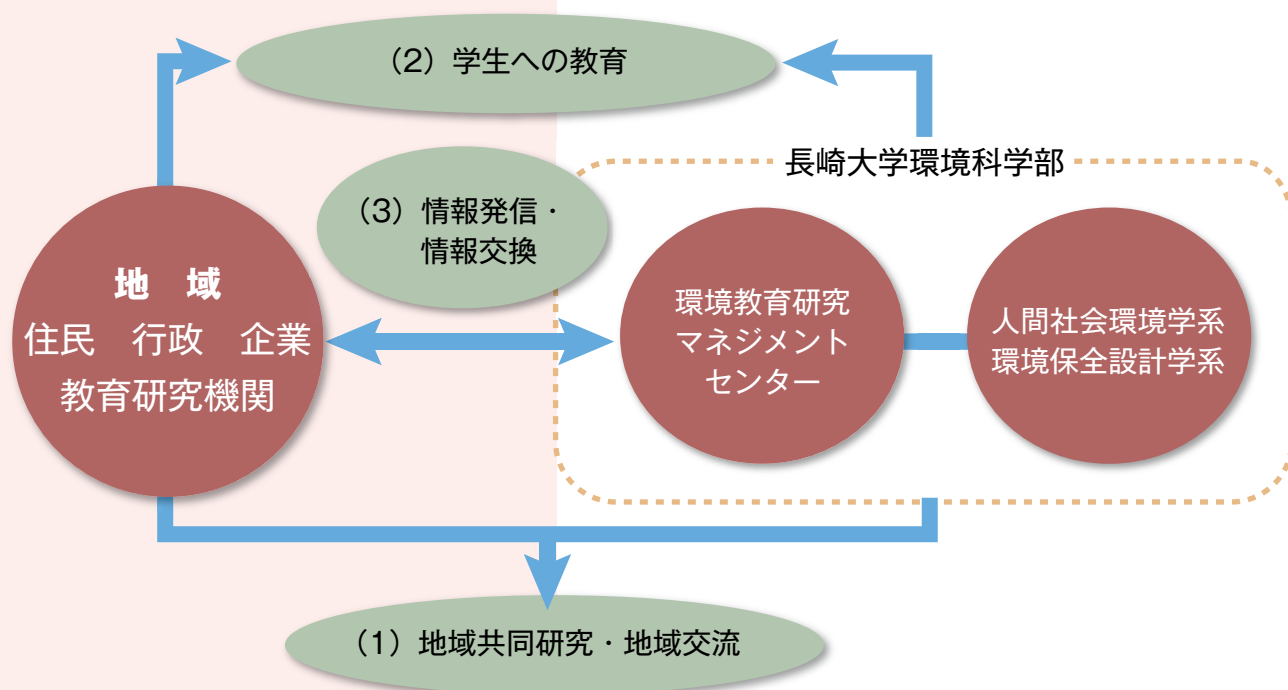
環境教育研究マネジメントセンター

環境教育研究マネジメントセンター

Environmental Management Center for Research and Education

環境教育・体験型教育の推進・支援を目的として2007年7月に学部内施設として誕生しました。センターの活動は地域共同研究・地域交流、学生への教育、情報発信の3つの柱からなっています。とくに、センター発足の契機となった「雲仙Eキャンレッジ」推進事業、

長崎県内はもとより国内外企業で展開されている地域活性化にかかわり、その成果を公開講座などの形で地域へ還元する生涯学習の機会拡充や、地域のコンサルタント機能の充実を図っています。



*「雲仙Eキャンレッジ」とは？

環境科学部に蓄積されてきた知の結晶は地域に還元されることでさらに輝きを増します。そのような地域とのつながりの特徴づけるものとして、「雲仙Eキャンレッジプログラム」があります。

このプログラムは、環境科学部、長崎県環境部及び雲仙市の三者協定の締結により2007年4月に始まりました。Eキャンレッジはエコキャンパス・エコビレッジの造語です。雲仙市域で、

三者が協力連携しながら、エコビレッジそしてエコキャンパスの形成を目指し、現実に発生している様々な環境問題を解決していこうというものです。

プログラムの担い手の一員である環境科学部環境教育研究マネジメントセンターが中心となってこれまで取り組んだ事例として、つぎのようなものがあります。

1. 環境省受託「国連持続可能な開発のための教育の10年促進事業」(2007～08年度)
2. 『雲仙市「ごみと私たちの暮らし」ワークブック』作成事業(2009年度)
3. 科学研究費「雲仙・島原における地熱エネルギーを用いた地域力再生プログラムの開発」(2010年度～)
4. 学部長裁量経費「島原半島における地熱資源を活用した低炭素社会の構築とジオ・ツーリズムの確立に関する研究」(2011年度)
5. 第5回ジオパーク国際ユネスコ会議の開催支援(2011～12年度)
6. 学生研究企画「中山間地自然農業体験プログラム」(2009年度～)

このように、さまざまな環境政策への住民参画や、地域資源を活かした持続可能な地域づくりのあり方について、学生が主体的に議論に加わったり、調査した成果をもとに意見交換する発表会を開いています。

雲仙市小浜町木指の棚田でおこなう
中山間地農業体験プログラム



課外科目「環境科学部フィールドスクール」の様子
島原半島ジオパークでの岩石標本作成体験



環境科学部が社団法人小浜温泉エネルギー等とともに
実証実験をすすめる雲仙市小浜温泉の未利用温泉水発電施設

*学生ボランティアとともに作る「ニューズレター」

2008年11月創刊で、季刊紙として発行しています。センターの活動報告をはじめ、長崎の隠れた自然・歴史・文化を紹介する「長崎まちエコ探検」、学生によるリレー企画「環境科学部ゼミめぐり」、持続可能な地域づくりに関する書籍を紹介する

「書架」などのコーナーを設けています。

また、このような環境教育や地域づくりに関心のある学生ボランティアを募り、教員と一緒に紙面の構成から完成までの作業をおこなっています。

*構成教員

センター長 早瀬隆司 教授（人間社会環境学系）

副センター長 深見 聡 准教授（センター業務専任、人間社会環境学系）